
幼馴染 恋人になる条件

りんか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幼馴染 恋人になる条件

【Zコード】

Z0097Z

【作者名】

りんか

【あらすじ】

「結婚してください」！　　そうプロポーズしてきたのは、小学三年生の幼馴染の男の子。「あと15年経つてカッコイイ男の人になつてたら、考へてもいいかも」と答えた次の日。高校生である相原美結の前にあらわれたのは、超絶イケメンの20歳くらいの男性。その彼が面と向かっていきなり告げてきたのは、「結婚してください」という突拍子もない言葉だった。いろいろな条件をつきつけて彼からの求婚を逃げ続けるものの、なんだかなし崩し的に話が進んでしまつて、いるような気がしてならない彼女と、そんな彼女に

ふりまわされているはずなのに、異世界で最強の力を手に入れたおかげで、なんなく条件をこなしてしまつ彼とのラブコメディ話（の予定）。

(1) (前書き)

ちょっと愚ひといふがあり、衝動的に書いてみました。不定期更新になりますが、よろしくお願いします。

「結婚してくださーーー。」

家を出で、高校へ向かう途中の通学路。突然響いたその言葉に、
私は目を何度も瞬かせながら振り向いた。

そこには、ランドセルを背負った小学三年生になつたばかりの男
の子。その子が、めちゃくちゃ真剣な顔でこちらを見上げている姿
があつた。見慣れたその子に、私はふつゝと息を吐く。

「おはよー、あつくん」

軽くあいさつをすれば、黄色い帽子に包まれた頭をずすりと私
の方に押しやりながら、その子　あつくんはあいさつの返答もそ
こないに、私へつめ寄つてくる。

4

「ねえねえ、いつ結婚してくれる?」
「いつって、それ昨日も一昨日もその前もきいてきたじゃなーいの」
「だつて、ちゃんと答えてくれないんだもん」

ふつと頬をふくらませるあつくんに、私は苦笑いを浮かべた。
そういう話題はあまり興味がない、と言つたりもつと怒るんだろ
うな、この子は。
私は「うーん」と首をひねりながら、まつすぐ立てた人差し指を
唇に当てた。

「そうだなあ……、あと15年経つて、あつくんがめちゃくちゃ力
ツ「コイイ男の人になつてたら、考へてもいいかも」

私の答えに、あつくんの顔がぱあっと輝いた。

「15年だね？ わかつた。絶対だよ？ 約束だからね、^{みゆ}美結おねえちゃん！」

駆けていく背中を見送りながら、私は手を左右に振った。
可愛いなあ、と朝からほのぼのしてしまつ。今日で何度もだらう、
あつくんからのプロポーズ。今まで「急いでいるから、また今度
ね」と適当にあしらつてきたけど、今日は何となく条件を出してしまつた。

彼は、将来イケメンになるんだろうな。幼いけれど、すこしく整つた顔立ちをしているもの。

15年……、かあ。思いついたまま口にしてしまつたけれど、15年も経つたら、私は三十路超えのおばさんだ。どう考へても、眼中にはないだらうな。

「ま。もともと私、年下には興味ないしね」

わらじめくへつて、私はこつものコースで高校へと向かった。

「結婚してください」

「……ま？」

私の前には、ちよつと変わった服装に身を包んだ背の高い超絶イケメン。

その彼に、私は通学途中の道ばたで、いきなり面と向かってそう告げられたのだ。

「なんで？ どうして？ 私の頭を、？マークが大量によぎつていぐ。

「あの、誰かと間違つていませんか？」

「いや。きみは、相原美結さんでしょ？」

「そうですけど……、どうして私の名前を知つているんですか？」

「幼馴染だからね、きみとおれは」

「はい？」

「いやいやいや。

私の幼馴染に、あなたのような超絶イケメンさんは、ビリーをひつくり返しても出てきませんから。

「やつぱり人違いですよ。他の“相原美結”さんを当たつてください

」

そう言つて、私は彼の横を通り過ぎようとする。

と。私の手首がガツとつかまれ、振り向いた私に彼がつめ寄つてきた。その真剣な顔立ちに、私はデジヤブを感じ思わず息をのむ。

「あの言葉は、嘘だつたんだ？」

「あの言葉……つて」

たずねられても、私には心当たりが全くない。

そんな私に、彼は少しだけさびしそうな表情を浮かべた。

「15年経つたら結婚してくれるって言つたじゃないか。美結、お

ねえちゃん

「……！」

その言葉に、私は絶句してしまった。

確かに言った。確かに昨日、そう言った。

でも、ちょっと待つて。それを言った相手は、昔から知っている幼馴染の小学三年生の男の子で。どう考へても、目の前の超絶イケメンと結びつかない。だけど、そう言ったのはあの子にだけで、しかも他に兄弟のいない私を“おねえちゃん”呼びわるるのは、あの子だけしかいないと思う。

いやそんな。まさか、もしかしてもしかする、わけ？

「……あっくん、なの？」

「そうだよ」

そのあっせりとした返事に、私はただただポカーンとなりながら、目を見開くだけだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0097z/>

幼馴染 恋人になる条件

2011年11月30日18時45分発行